

研究と活動

- 当センターでは、以上述べてきたような留学生の日本語教育、修学・生活指導を中心に、いろいろな面から留学生の教育に関わっていただくために次のような研究と活動を行っています。
- (1) 日本語・日本文化に関する教材とカリキュラムの研究・開発
 - (2) 教授法の研究・開発
 - (3) 教育の評価法と標準テストの研究・開発
 - (4) 学生の異文化適応の研究
 - (5) 指導と助言の方法の研究・開発
 - (6) 外国人留学生の受け入れ方法の研究
 - (7) 留学生の指導・援助体制のあり方についての研究

このような、研究や留学生教育の諸問題を討議するために、日本全国の教育機関にも協力をお願いして、毎年二回くらい講演・討論会(シンポジウム)を行っています。

そして、このような研究の成果と活動報告は、次の刊行物に発表されています。

- (1) 広島大学留学生センター紀要、広島大学 年刊
- (2) 広島大学留学生教育(旧称「広島大学留学生日本語教育」、広島大学 年刊

そのほか、留学生の研修成果の報告書としての『日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集』や、種々の日本語のテキストも発行しています。

そのほかにも、留学生の研究・生活の助言になるような情報誌のようなものの発行も考えております。

課題と将来

以上述べた中にも窺えるところがありますが、現状では多くの問題点があります。講義室も演習室も現在の多様な留学生の日本語教育に充分には対応できません。種々の活動に必要な場所(教室や教官室)が手狭になってきています。指導部門の相談室も確保できていないのが現状です。

とりわけ、留学生センターがどこにあるのか判断としないそうです。顔がないのです。そのため、いくつかの誤解も生じているようです。したがって、ここ数年留学生センターの独立棟の建設を要求していますが、なかなか実現しません。

ソフトの面でもハードの面でも、より充実した教育・研究・指導体制が整備されなければなりません。いろいろな機関とも協力し合って、教育・研究活動を行っていかねばなりません。

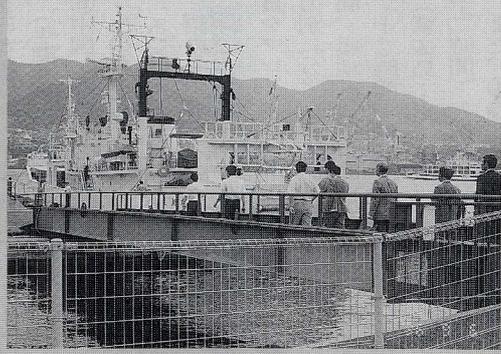
なお、当センターへの問い合わせは、インターネットを利用されるか、内線六二八五にお問い合わせ下さい。

インターネットホームページアドレス

<http://www.ipcc.hiroshima-u.ac.jp/~ie/>



豊潮丸公開



練習船基地に停泊中の豊潮丸に乗り込む

豊潮丸をご存じですか。

生物生産学部附属練習船「豊潮丸(三百二十四トン)」は、生物生産学部水産系コース学生の教育航海、水産環境学実験実習や、諸大学との共同研究において研究調査船として利用されている。

広島大学にこのような船があることを知っている人は、数少ないかもしれない。まして乗船したことのある人は、ほとんどいないかもしれない。そんな「豊潮丸」の公開が九月六日行われ、工学部茂里教授ら学内関係者十数名が参加した。

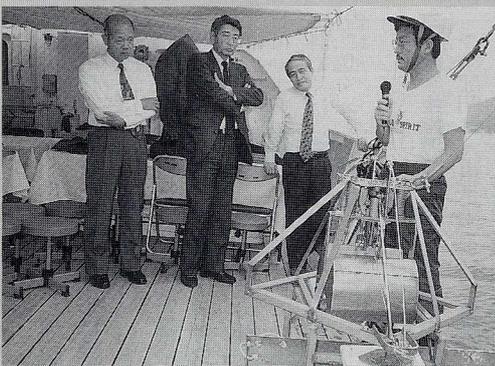
呉市宝町にある練習船基地の案内の後、豊潮丸に乗り込み、宇品港を目指して出航した。船上では、中口助手から船内の機能・設備について丁寧な説明があった。洋上滞在は二十日間は可能で、海水を真

水に変える装置、魚群探知機、漁網探知装置、レーダー及びドップラーファイナダーなどの航海機器の説明を受け、船内研究室や学生実習室などを見学した。

途中呉ポートピアランドの沖合に停船し、今林教授らによる採水・採泥の海洋観測のデモンストレーションが行われた。採水器で採取した海水は船内研究室のパソコンにすぐにデータとして入力される様子に感心し、大型コア採泥器で採取した瀬戸内海の海底の泥の汚染度に驚かされた。

教育航海や調査航海のため、一年のうち二百日近く海上で生活をしている「豊潮丸」の姿を少し垣間見た「豊潮丸」の公開であった。

この日のためにいろいろとお世話してくださった、上教授や船長をはじめとする乗組員の方々、生物生産学部の方々、お世話になりました。



今林教授による採泥の海洋観測のデモンストレーションの様子を熱心に聴く参加者